

令和6年8月29日

日立理科クラブ通信

No.229



日立理科クラブ

「モノづくり体感スタジアム2024」に出展

8月3日(土)、4日(日)東京都立産業貿易センター浜松町館で行われた「モノづくり体感スタジアム」について紹介します。

このイベントは、モノづくり日本会議や日刊工業新聞社が主催し、モノづくりのワークショップが一堂に会して、子どもたちにモノづくりの楽しさを伝えようと2009年から開催されています。日立理科クラブは、(株)日立製作所からの要請を受けて他の多くの企業・団体とともに、今回はじめて参加しました。

日立理科クラブのワークショップは、小学4~6年生を対象として『電気ふしぎ発見：電気を“つくろう・ためよう・つかおう”』というテーマで、電気に関する様々な科学体験をし、参加者が自らコップモーターを制作し、コップを回転させることです。

午前・午後に行われる90分のワークショップに、事前に参加予約していた子どもたちが集まってきました。

「電気をつくる」コーナーでは、水力・火力発電を模型で体験しました。どのようにして発電しているのか原理が少しわかったようです。また、風を送って風力で発電することを確認しました。水素で発電する燃料電池も紹介されていました。

「電気をためる」コーナーでは、リチウムイオン電池などが紹介されていました。

「電気をつかう」コーナーでは、スピーカーやマイクが簡単にできことを体験しました。頭蓋骨がスピーカーになることを体感して保護者の方々も大喜びでした。また、光をつかった通信もやってみて、導線がないのに伝わっていくことに、ふしぎさと面白さを感じているようでした。これらの体験を通して、これまで、難しいと思っていた科学や技術が身近なものに感じてくれたように思います。

次に、コップモーターをつくりました。子どもたちは、指導者や保護者と一緒につくっていきました。難しいところもありましたが、誰もが作り上げました。できあがると、とても満足しているようで、楽しそうにコップを回していました。どうして回るのか、質問を繰り返す子どももいました。体験を通して、科学の芽が肥料や日光を受けて大きく伸びようとしているように感じました。

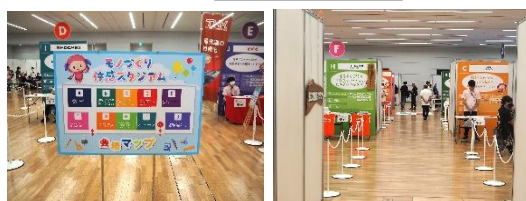
参加した子どもたちに感想を聞くと、とても楽しかったと言っていました。

理科クラブの隣では、(株)日立製作所がペットボトルキャップからボタンをつくるワークショップを出展していました。他の参加した企業・団体も子どもたちに、SDGsやモノづくりの面白さを伝えようと一生懸命でした。

(株)日立製作所の東原会長も、理科クラブの展示物をご覧になり一つ一つ説明を聞きながら、よくできているね、とメンバーをねぎらっていました。



会場



電気体験



コップモーターづくり



東原会長に説明